

# 編集後記

▼「新潟県の農業と学校・子育て」のテーマで特集しました。

▼その中で和田氏や大崎氏は米作県新潟の農民が米の販売の自由化、減反政策の強化という厳しい状況下であらたな活躍を摸索していること、またあらたな地域の共同の芽が生まれ始めていることなどを紹介しています。

▼倉島氏は大自然に働きかけ、それとの調和で成り立っている農業、一戸だけでは成り立たない生産体系をもち、地域、近隣への配慮と共同の心を育てることなしにはやれない農業、生物学・土壌学・気象学等々多くの学問を融合させて成り立っている農業等々、農業の奥行きの深さ、すばらしさをぜひ学校で子どもたちに学ばせて欲しいという願いこめてかいています。

▼新潟県の学校はみなそれぞれ豊かな食の供給地をもっています。輸入された食肉の腸管にいたりという病原性大腸菌O一五七などに脅かされない、身近なところで作る人の顔のみえる米・野菜や肉や乳製品などで健康で安全な学校給食をとだれもが思います。

そんな願いを坂本・木村氏が書いてくださいました。

▼好評だった「教育財政セミナー」（九六年八月）をうけて「新潟県自治体の教育財政シリーズ」を企画しました。研究所会員の議員さんたちにそれぞれの市町村の教育予算が持つ問題を整理していただき、順次本誌に掲載していきます。

▼寺泊町の高井議員の教育費の住民・父母負担の軽減をめざす粘り強い奮闘に敬意を表します。

▼福本氏が市民によんでもらえるようにと心を込めて書いてくださった「三面川源流のブナ林を伐採から守ろう」という論文はとて面白いのでわかりやすい力作です。会員のみなさんの中で「新潟県の自然環境保護」のテキスト・学校の郷土学習教材として活用していただくことを期待しています。

また村上の市民団体が呼びかけている五月十日・十一日の「森林を守るシンポジウム、三面川ブナ林観察会」に足を運んでください。

▼二月二十二日、上越市で高地性集落・裏山遺跡について考えるシンポジウムが開かれています。この遺跡は上信越自動車道の建設で「保存か破壊」でゆれています。「北から南から」の甘粕健氏の随想は「現代の英知をつ

くして遺跡と高速道の共存を語る……」ことを呼びかけておられます。

▼「子育て公園」は会員みなさんの広場です。何人かあつまってそれぞれわが子の子育てを語ってください。取材して誌上に掲載します。この次は保育園児のお母さんたちが登場します。

▼「子どものための法律相談」もシリーズで掲載します。子どものもことで法律問題を抱えておられる方は編集部にお問い合わせください。弁護士さんと相談して誌上で回答します。

(本田)

## にいがたの教育情報 No. 49

1997年2月28日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 長崎 明  
〒951 新潟市東中通1-86 山崎ビル  
電話・FAX (025) 228-2924  
振替口座・00640-0-12332  
印刷所・中央印刷さびす

本誌内容の無断転載を禁じます。